〈　目　次　〉

Ⅰ．新潟市のサイン表示に関する取り組み……P１

（１）新潟市都市サインマニュアル策定の経緯等について
（２）新潟市都市サインマニュアルの概要およびサイン表示の整備状況等について
（３）新潟市都市サイン整備推進協議会の設置について

Ⅱ．新潟市におけるサイン表示の現状……P2

（１）サイン表示の必要性と利用状況
（２）サイン表示に対する評価
（３）その他（自動車交通に関する道路案内表示について）

Ⅲ．提言……P3～

来街者に優しい都市づくりに向けて
～新潟市におけるサイン表示の整備促進に関する提言～

提言１．サイン表示の管理・監視体制の整備

提言２．サイン表示の増設

提言３．　来街者の視点に立ったサイン表示への改善

提言４．民間との協力体制を通じたサイン表示の整備

提言５．他の案内・誘導方法とサイン表示との相乗効果の発揮

提言６．各種行政政策・施策等との連動

Ⅳ．参考資料……P7～

「新潟商工会議所　政策委員会」委員名簿

Ⅰ．新潟市のサイン表示に関する取り組み

（１）新潟市都市サインマニュアル策定の経緯等について

昭和63年の「新潟市観光関連事業促進連絡調整会議」において、市内共通のマニュアルに基づく公共サイン整備の必要性が唱えられ、平成２年に「新潟市都市サインマニュアル」が策定された。

その後、同マニュアルに関しては、県のサイン整備に向けた動きや市町村合併、ユニバーサルデザインの必要性などの状況変化などもあり、平成19年３月に最新版として改訂され現在に至っている。

（２）新潟市都市サインマニュアルの概要およびサイン表示の整備状況等について

同サインマニュアルは、「わかりやすい街づくり、美しい街づくり」を目指し、“市内を一人で歩いて回れる”ことを可能にする案内情報の提供、誘導のため、歩行者系の公共サインに関する計画・設計および管理を行う場合の手引とすることを目的としている。

現時点（平成23年５月現在）では、同マニュアルに基づき、新潟市内中心部に“交通大拠点”“交通拠点”“分岐点”“誘導ポイント”“施設拠点（目的地）”に区分された107基のサインが設置されているが、平成20年のＧ８サミット終了後は新たな設置は行われていない。

（３）新潟市都市サイン整備推進協議会の設置について

地域全体の案内・誘導サインに関するニーズや課題を把握し、解決策等について継続的に検討・調整することを目的に、官民（新潟市、北陸地方整備局、新潟県、県内大学、ＪＲ、新潟交通、佐渡汽船、新潟空港ビルディング、新潟市ホテル連絡協議会など）が一体となった「新潟サイン整備調整会議」が設置され、平成18年度に都市サインマニュアルの見直し等を行った。

その後、平成19年に、整備主体それぞれの意見交換や、情報の共有を行うための調整機能を持つ「新潟市都市サイン整備推進協議会」が組織され現在に至っている。

Ⅱ．新潟市におけるサイン表示の現状

来街者に優しい都市づくりの実現に向け、当委員会が実施した「新潟市におけるサイン表示の整備促進に関する調査－新潟市内中心部におけるサイン表示（案内板）に関するアンケート調査・街歩き実態調査」の結果などから、新潟市におけるサイン表示の現状を分析した。

（１） サイン表示の必要性と利用状況

当委員会が行ったアンケート調査結果によると、不慣れな都市の移動（街歩き）に際し、現地のサイン表示の利用割合（「必ず活用している」と「概ね活用している」の合計）が８割を超え、サイン表示が依然として来街者にとっての主要な道案内になっている様子が明らかとなった。

また、同調査では、旧新潟市都市サインマニュアルに基づいて設置された「帆柱型サイン表示」について、回答者の６割近くが「利用したことがない」と答えており、「帆柱型サイン表示」については、主要な道案内として、設置数や設置方法などに改善の余地があることがうかがえる。

（２）サイン表示に対する評価

同調査の結果では、新潟市内中心部のサイン表示について、回答者の４割近くが不便を感じたことが「ある」と答えている。その理由としては、「サイン表示の設置数が少ない」、「サイン表示が目立たず、見つけにくい」、「サイン表示の案内・誘導内容が分かりにくい」とする回答割合が、それぞれ４割を超えた。また、設置数や機能性・実用性についての不満の意見が挙がる一方で、「景観と調和したデザイン」という点では、評価する意見が多かった。

さらに、「帆柱型サイン表示」についての評価では、「設置数の多さ」、「地図の大きさ」、「文字の大きさ」、「案内・誘導表記の分かり易さ」等で不満率（「不満」と「どちらかと言えば不満」の合計割合）が高くなっており、機能性・実用性の面における課題が明らかとなった。

（※詳細は、当委員会「新潟市におけるサイン表示の整備促進に関する調査報告書－新潟市内中心部におけるサイン表示（案内板）に関するアンケート調査・街歩き実態調査－」を参照。）

（３）その他（自動車交通に関する道路案内表示について）

今回は主として来街者が徒歩で移動するケースについて調査、分析を行ったが、アンケートの自由意見等において、市内中心部の自動車移動に関する改善要望のご意見も多く頂いた。具体的には、一方通行の多さ、交通量の多さ、駐車場の整備不足等に対し改善を求める要望が多く寄せられており、来街者に優しい街づくりの観点から、こうした自動車ドライバー向けのサイン（道路案内表示）の改善を求める要望が多く寄せられた。

Ⅲ．提　　言

来街者に優しい都市づくりに向けて

～新潟市におけるサイン表示の整備促進に関する提言～

「新潟市におけるサイン表示の整備促進に関する調査報告書－新潟市内中心部におけるサイン表示（案内板）に関するアンケート調査・街歩き実態調査－」の結果などを踏まえ、以下の内容を提言としてまとめた。

サイン表示の整備促進に関する提言

新潟商工会義所政策委員会では、来街者に優しい都市づくりを推進するため、サイン表示の整備促進について、下記６項目を提言いたします。

提言１．サイン表示の管理・監視体制の整備

提言２．サイン表示の増設

提言３．　来街者の視点に立ったサイン表示への改善

提言４．民間との協力体制を通じたサイン表示の整備

提言５．　他の案内・誘導方法とサイン表示との相乗効果の発揮

提言６．各種行政政策・施策等との連動

提言１．サイン表示の管理・監視体制の整備

サイン表示を充実させ来街者に優しい都市づくりを実現するためには、以下の点を優先して対応を図っていく必要がある。

- ◆ 学識経験者や公共交通関連企業等といった産官学の関係者が参加している「新潟市都市サイン整備推進協議会」の積極的な活用による十分な管理・監視体制の強化およびサイン表示の改善等に関する権限の付与。
- ◆ 「新潟市都市サイン整備推進協議会」による来街者や地元の市民・企業からの広い意見収集および地域発展に資する調整機能の発揮。
- ◆ サインの過不足やサイン表示の内容の評価、担当部署の取り組み体制、設置後の周辺状況（プランター設置や駐輪等）について監視・指導する新たな体制の構築。（新潟市都市サイン整備推進協議会の発展形含む）
- ◆ 管理・監視組織と設置担当部署との役割分担の明確化。（例えば「新潟市都市サイン整備推進協議会」の諮問（提案）に基づいてサイン表示を設置する場合は、設置担当部署は、設置後に責任を持って設置したサイン表示が有効に機能することを現認し、協議会に確認報告を行う等の体制整備など）
- ◆ サイン表示設置に関する担当窓口の一元化と恒久化および設置計画（plan）、設置（do）、 評価（check）、改善（act）といったＰＤＣＡサイクル機能の構築。

提言２．サイン表示の増設（予算の確保）

当委員会の調査結果を見ると、サインの設置数の不足が不満の主要因となっているため、以下の点について対応を図っていく必要がある。

- ◆ 必要な箇所への適切なサイン表示の早期増設。
- ◆ 特に新潟駅から古町地区、駅南地区における、「案内サイン」を補完する「誘導サイン」「地名・地番表示」の効果的な設置(増設)。
- ◆ 交流人口の増加を図るためにも、人に優しい街、安全・安心な街づくりは喫緊の課題であることから、同事業に対する予算の十分な確保とサイン表示の増設や改良の計画的かつ積極的な推進。

提言３．来街者の視点に立ったサイン表示への改善

同じく調査結果などからも、新潟市のサイン表示は、新潟市民なら理解できても、来街者には分かりにくいというものが散見されたことから、以下の点について対応を図っていく必要がある。

- ◆ 新潟の玄関口である新潟駅万代口から古町までのエリア及び新潟駅南口周辺エリアにおける、来街者を意識した表示内容・方法の徹底。
- ◆ 以下の点などを考慮したサイン表示の改善。

① 短期的な改善点

ア　過度な景観重視による目立ちにくさの回避(形状、配色、デザイン等の改善)

イ　樹木や街路灯、電柱などの障害物に配慮した設置場所の選定。

ウ　進行方向からも見つけやすい形状、デザインおよび設置方法の導入。(※下の写真参照)

エ　文字や地図を大きくするなど、高齢者に対応した表示方法の徹底。

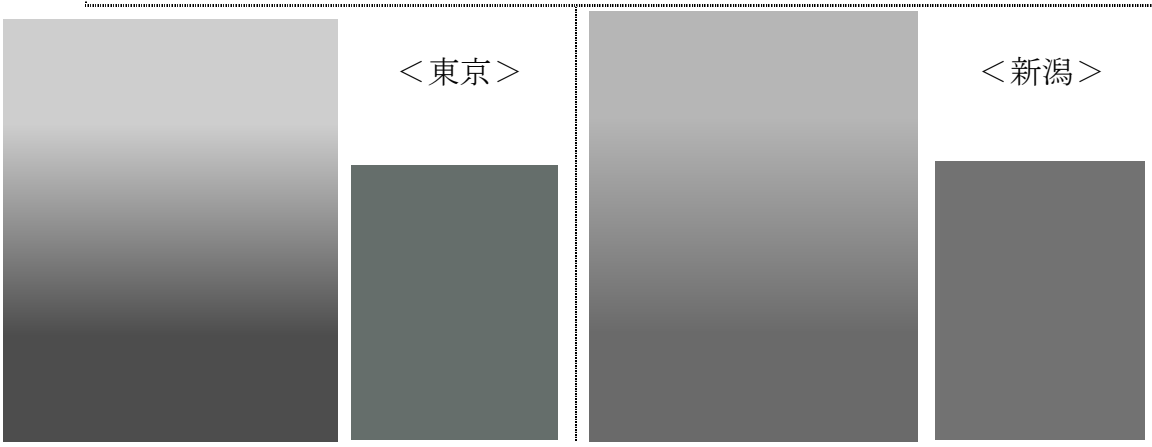
オ　サイン表示周辺における障害物(樹木、プランター、ベンチ、自転車、バイクなど)の排除。

カ　外国人や県外者の意見を反映したサイン表示の設置(びゅうプラザ等の案内施設名を国際的に通用する名称に統一するなど)。

② 中期的な改善点

ア　ＱＲコードによる音声案内や、情報の速やかな更新・アップデートが可能なデジタルサイネージ（電子看板）の採用。

イ　公的なサイン表示と民間設置のサイン表示、観光ガイドブック（マップ）等における標記方法の統一化。



※写真左は東京（有楽町付近）の案内看板、右は新潟（新潟駅前通り）の案内看板

両方とも樹木や電柱などの陰に設置されているが、左＜東京＞は、進行方向から見て ①マークにより案内看板の位置が分かるが、右＜新潟＞はどこに看板が設置されているか分からない。

提言４．民間との協力体制を通じたサイン表示の整備

ＪＲ新潟駅構内やバス停・バスターミナル、新潟空港のサインの不備を指摘する声が多いことなどから、以下の点について対応を図っていく必要がある。

- ◆ 新潟空港、ＪＲ、新潟交通等の関連機関・企業への積極的な働きかけと十分に調整を行った上での速やかなる改善。
- ◆ 短期的な改善を実施しつつ、長期的な視野に立った新潟駅連続立体交差化の時期に合わせた改善策の構築。

◆ 行政が設置するサイン表示のみならず、民間事業者や市民団体等が設置するサイン表示に対する「新潟市都市サインマニュアル」の順守徹底とそれに基づく街全体としての統一感の醸成。
◆ 案内看板設置に対する補助金制度等のインセンティブによる民間事業者、市民団体等に対する「新潟市都市サインマニュアル」の周知徹底。
◆ 地元の商店街組織、自治会組織、街づくりに関わる市民団体などとの連携。

提言５．他の案内・誘導方法とサイン表示との相乗効果の発揮

サイン表示の充実・強化を図ることは当然重要であるが、サイン表示単体では案内機能を十分に発揮させることは難しいことから、以下の点について対応を図り、サイン表示との相乗効果を生み出していく必要がある。

◆ アンケート調査によると、多くの来街者はサイン表示と観光ガイドブック（マップ）を合わせて活用していることから、より分かり易い観光ガイドブック（マップ）への改善。
◆ 観光案内センターや観光ボランティア等のマンパワーによる案内能力の更なる充実によるサイン表示との相乗効果の創出。
◆ 近年におけるスマートフォンの普及など将来的なナビ機能への対応および古町地区等で進められているＡＲ（拡張現実）機能との連動性の向上。
◆ 来街者を受け入れるにあたっては、“人に優しいまち”であると同時に、“人が優しいまち”であることが重要であることから、観光関連業者や観光ボランティアの接客技術の向上にとどまらず、市民ひとりひとりの“おもてなし”に対する意識啓発の推進。

提言６．各種行政政策・施策等との連動

サイン表示の整備に当たっては、関連する行政施策と連動させて効率的、効果的に進めていくことが重要であることから、以下の点について対応を図っていく必要がある。

◆ 新潟市が積極的に展開する″健幸都市（スマート・ウェルネス・シティ）″構想の実現や″モビリティ・マネジメント″拡大に向けた交通政策や環境政策などと連動した柔軟な取り組みによる相乗効果の創出。
◆ 昨今の健康ブーム等を背景に人気のある“駅からウオーク”など、他都市からのまち歩きツアーを意識した観光政策との連携。
◆ 道路標識など道路交通や安全面を所管する県等の行政機関との連携強化。

Ⅳ．参考資料

「新潟商工会議所　政策委員会」委員名簿（順不同・敬称略）

委員会役職名	氏　名	事　業　所　名	役　職　名
委員長	内山　節夫	(財)新潟経済社会リサーチセンター	理事長
副委員長	馬場　宗夫 (H23.6まで)	三菱商事(株)新潟支店	支店長
副委員長	守時　　諭 (H23.6から)	三井物産(株)新潟支店	支店長
副委員長	長谷川　克弥	ハセガワ化成工業(株)	専務取締役
委　　員	内田　眞一	日本銀行新潟支店	支店長
委　　員	瀬賀　孝子	(株)ＷＩＴ	代表取締役
委　　員	土田　陽平	(財)にいがた産業創造機構	経営支援グループ ディレクター
委　　員	竹内　希六	(株)新潟日報社	専務取締役 経営管理本部長
委　　員	有間　　巧	(株)第四銀行	法人営業支援部長
委　　員	熊倉　　哲	(株)北越銀行	金融サービス部長
委　　員	歌代　　淳	新潟交通(株)	常務取締役
委　　員	金井　哲郎	金井度量衡(株)	会長
委　　員	皆川　義雄	(株)皆川組	代表取締役社長
委　　員	萱場　和彰	(株)カヤバ	代表取締役社長
委　　員	河江　芳久	福田道路(株)	代表取締役社長
委　　員	本間　正隆	(株)本間組	取締役 専務執行役員
委　　員	敦井　一友	新潟青年会議所	理事長
委　　員	冨増　　明	東邦産業(株)	相談役
事務局	井上　達也	新潟商工会議所事業部	次長
事務局	北山　晃也	新潟商工会議所事業部	総合政策課係長